



令和7年度 日本大学国際関係学部

下期

市民公開講座

統一テーマ

「不確かな時代を生きる人間像 —文学からみる運命、抵抗、そして再生—」

第1回

11/5
(水)

光源氏の挫折と栄光—貴種流離譚の視点から見えてくるもの—

日本大学国際関係学部

准教授

笹生 美貴子

第2回

11/12
(水)

ハーディ文学にみる人間像—運命と抵抗, そして再生(?)—

日本大学国際関係学部

准教授

杉本 宏昭

第3回

11/19
(水)

金子文学の獄中手記『何が私をこうさせたか』を読む
—運命からの脱却と人間の絶対平等を求めて—

日本大学国際関係学部

特任教授

安元 隆子

第4回

11/26
(水)

村上春樹『IQ84』の達成と限界

日本大学国際関係学部

教授

芳賀 理彦

時間 18時15分～19時45分

定員 300名

受講料 無料

会場 三島駅北口校舎
1階大教室

申込資格 参加自由



お申し込みはこちら

主催 日本大学国際関係学部／日本大学短期大学部(三島校舎)／日本大学国際関係学部国際関係研究所

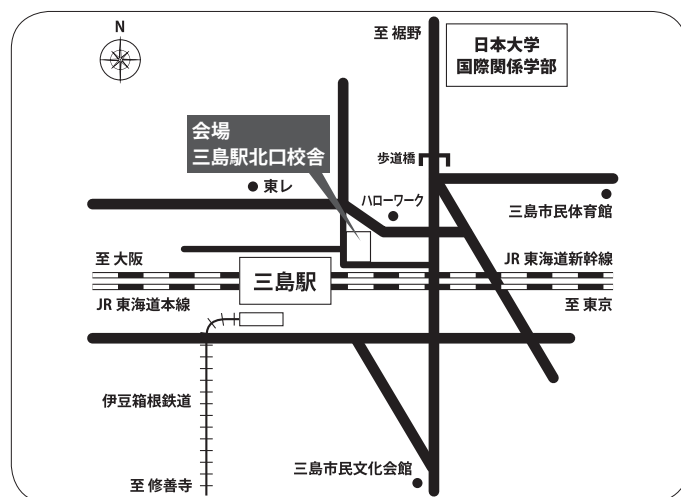
後援 三島市／三島市教育委員会／裾野市教育委員会／清水町教育委員会／長泉町教育委員会／函南町教育委員会／しずおか県民カレッジ連携講座

連絡先 日本大学国際関係学部 研究事務課 TEL 055-980-0808 <https://www.ir.nihon-u.ac.jp/research/public/>

令和 7 年度 日本大学国際関係学部
下期 市民公開講座申込要項

- 1 申込資格：どなたでも参加できます。
- 2 会場：定員 300 名
日本大学国際関係学部山田顕義ホール
国際関係学部三島駅北口校舎 JR 三島駅北口前
- 3 申込方法：二次元コードからの入力もしくは、別紙「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送またはFAX・メールでお申し込みください。
あて先 〒411-8555 三島市文教町2丁目31番145号
日本大学国際関係学部 研究事務課 市民公開講座係
FAX 055-980-0879
E-mail: ir-kouza3@nihon-u.ac.jp

二次元コード
※「申込書」にご記載の個人情報は適切な方法で管理します。本講座に限定使用し、第三者には開示・提供いたしません。
- 4 問い合わせ先：日本大学国際関係学部 研究事務課
TEL 055-980-0808
- 5 申込期日：各開講日の2日前まで（出席者名簿を作成するため）
- 6 受講料：無料
- 7 注意事項：
 - (1) 講師の病気、悪天候等やむを得ない事情により、講座を延期または中止することがあります。急遽中止する場合はホームページにて掲載いたします。
 - (2) 受講許可の通知はいたしませんので、当日、直接会場にお越しください。
 - (3) 万一の場合、休講などの連絡をいたしますので、「申込書」には住所・電話番号を必ずご記入願います。
 - (4) 本校では車・バイクの乗り入れはできません。徒歩または電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。



会場 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎

令和7年度 下期市民公開講座のご案内

統一テーマ

「不確かな時代を生きる人間像—文学からみる運命、抵抗、そして再生」

戦後80年、私たちは自由、平等、民主主義などの政治道徳法則の遵守を誓い、国際社会の一員として他国と協調し、平和の実現のために生活を送ってきました。しかし、国際法や国連憲章では、武力行使が禁止されていますが、ウクライナ侵攻や中東紛争が発現しています。法理論の当否はともかく、戦場では多くの尊い人命が失われています。私たちはこのような戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願うと共に、この不確かな時代にどのように生きていけばよいか、探っていきたいと思います。

この度の公開講座では、「不確かな時代を生きる人間像—文学からみる運命、抵抗、そして再生」という統一テーマのもと、日本大学国際関係学部の先生方からお話をいただくことになりました。不遇の光源氏がいかに政治の世界へと振り返り咲くのかを笹生美貴子先生から、イギリスのヴィクトリア朝時代に活動したトマス＝ハーディ作品を中心にして、そこでの世界とは、時代とは、運命とは、を杉本宏昭先生から示していただきます。また、金子文子の獄中手記と裁判記録から、彼女の人間絶対平等を求めた思想について安元隆子先生から、『1Q84』を中心にして、村上春樹のいう現代世界の構造とその限界について、芳賀理彦先生から講演をいただきます。

それぞれの分野のエキスパートの先生方からの研究に触れることにより、不確かな時代を生きる人間像をイメージしていただき、自分たちの進んでいく道を考える糧としていただければ幸いです。

皆様のご来場（国際関係学部、三島北口校舎）を心よりお待ちしております。

第1回 11月5日(水)

「光源氏の挫折と栄光—貴種流離譚の視点から見えてくるもの—

笹 生 美貴子／日本大学国際関係学部 准教授

今から1000年程前に書かれた『源氏物語』は、現在ではドラマや映画、英訳をはじめとした翻訳書も多く刊行されており、世界中の人々に親しまれています。

本講演では、王権という視点から『源氏物語』を読み解きます。主に、窮地に陥った光源氏が、自ら官位を返上して須磨へと退居し、再び都へと戻る場面（「須磨」「明石」巻）を取り上げます。そこには、菅原道真など、左遷を余儀なくされた人物達の思いが光源氏に重ねられてもいるのです。不遇の光源氏がいかに政治の世界へと振り返り咲くのか、「物語の力学」についても注目しつつ考えます。

第2回 11月12日(水)

「ハーディ文学にみる人間像—運命と抵抗,そして再生(?)」

杉 本 宏 昭／日本大学国際関係学部 准教授

ヴィクトリア朝(1837-1901)は、イギリスの歴史において最も国が発展した時代の一つであった。小説においては、その発展と繁栄を担う人々の考え方・生き方が写し出された。しかしこれだけ長いヴィクトリア女王の治世、時代は当然変化し、小説も様々なジャンルが出現する。ヴィクトリア朝後期にもなると、いわゆる「暗い」小説が目立つようになる。トマス・ハーディ(Thomas Hardy 1840-1928)はヴィクトリア朝中期から後期にかけて作家活動をし、その作風は時代に対し次第に痛烈になりまた暗くなる。しかしこの痛烈さと暗さが、世界とは、時代とは、人間とは、運命とは何か、そして人が生きることとは何か、という数々の問題を我々に考えさせる。本講座ではヴィクトリア朝時代とハーディ文学を紹介する。皆さんにとってこの講座が何かの「考えるヒント」になればありがたい。

第3回 11月19日(水)

「金子文子の獄中手記『何が私をこうさせたか』を読む

—運命からの脱却と人間の絶対平等を求めて—」

安 元 隆 子／日本大学国際関係学部 特任教授

金子文子は幼少時、無戸籍者故に正規教育を受けられず、放埒な両親の下で辛酸を舐め、養子先の朝鮮の祖母の家でも人間扱いされませんでした。死の淵から蘇生した文子は「私自身」を生きることを目指し、苦学をしながら同志の朴烈と活動します。関東大震災の際、保護検束され大逆罪のかどで死刑宣告を受けた後に無期懲役となりますが、文子は自死を遂げました。文子が自己を見つめて執筆した獄中手記と裁判記録から、文子の運命からの脱却と「人間の絶対平等」の思想について考えます。

第4回 11月26日(水)

「村上春樹『1Q84』の達成と限界」

芳 賀 理 彦／日本大学国際関係学部 教授

村上春樹さんの小説『1Q84』は、パラレルワールドに入り込んでしまった主人公二人が、それぞれ自らの「運命」に「抵抗」し、そして「再生」を目指す物語です。村上さんは常にローカルかつグローバルな視点で、現代の世界の構造を作品に反映させ、時には未来を予言するような物語を作り上げてきました。しかしそれではもう描ききれない時代を我々は迎えようとしています。本講演では、村上春樹という作家が文学において達成してきたものとその限界について考えます。